

会議資料1 これまでの経緯

1. これまでの経緯

「明日の熊野川整備のあり方」は第6回熊野川懇談会において作成することが決定されました。
 これまでの審議内容は以下の通りです。

年月	会議名称	議事内容
平成18年10月	第6回熊野川懇談会	「(仮称)流域のまとめ」の作成を決定 ・整備計画原案への意見作成の前に、水系一貫の視点から熊野川流域全体の課題に対して学識経験者からの意見を取りまとめることが決定された。 「(仮称)流域のまとめ」の審議のために「検討会」「グループ会議」の設置を決定(検討会:委員全員、グループ会議:分野別)
平成18年11・12月	検討会、グループ会議	熊野川流域の課題の整理と課題に対する考え方について審議
平成19年1月	検討会	「(仮称)流域のまとめ」の構成について意見交換
平成19年3月	第7回熊野川懇談会	「(仮称)流域のまとめ」の課題構成、課題内容の確認 執筆担当委員の決定
平成19年4・5月	(意見作成)	流域の各課題に対する意見作成(担当委員)
平成19年6月	検討会	流域の課題への意見内容の確認
平成19年8~10月	(編集会議)	流域の課題への意見内容について分野別審議(追加意見、訂正等)
平成19年12月	検討会	名称を「明日の熊野川整備のあり方」に決定 編集会議での取りまとめ意見に対する全体審議
平成20年2月	検討会	流量変更についての説明 流量変更に伴う流域の課題への意見内容の修正箇所確認
平成20年5月	検討会	新宮川水系河川整備基本方針の概要説明 基本方針決定に伴う流域の課題への意見内容の修正箇所確認
平成20年6月	(意見修正)	基本方針の内容を踏まえた意見内容の修正 河川管理者へ内容に関する意見提出の依頼
平成20年6月	(意見確認)	「明日の熊野川整備のあり方」の内容について、河川管理者等からの意見書提出
平成20年7月	第8回熊野川懇談会	「明日の熊野川整備のあり方」について(最終審議) ・基本方針を踏まえた修正内容の確認 ・河川管理者等からの意見とその対応について ・配布、発表方法について その他

2. 懇談会委員について

(1) 新委員就任について

河川砂防分野に欠員が生じたため、該当分野に関わる新委員を選考しました。

< 選考の経緯について >

熊野川懇談会においては、河川・砂防分野の新委員を補充することとなり、平成19年6月に補充委員選考会が開催されました。

選考会では、委員等により推薦された候補者（設立準備会時点の候補者を含む）を対象に選考審議が行われ、その結果、追加補充委員として、選考委員全員の推薦により、河川・砂防分野の専門家である「藤田正治京都大学防災研究所教授」が選考されました。藤田委員におかれましては、平成19年8月から熊野川懇談会委員として活動いただいております。

藤田教授の経歴は以下のとおりです。

熊野川懇談会委員候補者経歴表

[敬称略]

委員候補者	ふりがな	ふじた まさはる
	氏名	藤田 正治
	所属	京都大学防災研究所 流域災害研究センター 教授
	専門分野	分野区分: 治水
		専門内容: 河川・砂防・森林工学(水工水理学・林学・森林工学)
経歴	京都大学防災研究所 流域災害研究センター 教授 (博士(工学) 京都大学 1987/3) < 研究テーマ > 1. 砂防構造物の機能に関する研究 土砂流出,堆砂,侵食 研究分野: 水工水理学、林学・森林工学 2. 河床形態に着目した河川環境に関する研究 河川環境,淵,河床形態 研究分野: 水工水理学、林学・森林工学 3. ダムからの排砂に関する研究 排砂,河川環境,河床変動 研究分野: 水工水理学、林学・森林工学 < 主な研究論文 > 1. 水みちの発生・発達過程の実験とシミュレーション(共著) 水工学論文集(学術雑誌、1995) 39 / , 613-618 2. 千代川における淵の構造と魚類の生息環境(共著) 水工学論文集(学術雑誌、1996) 40 / , 213-218 3. 北谷川における河川形態変化とそれに伴う河川環境変化に関する考察(共著) 水工学論文集(学術雑誌、1996) 40 / , 213-218 4. 砂防ダムからの排出土砂の移動とそれが溪流環境に与える影響 水工学論文集(学術雑誌、2000) 44 / , 1215-1220	

(2) 委員の辞任について

平成20年3月に歴史・文化の担当であった神坂委員より辞任願いが提出され、受理されました。なお審議の結果、歴史・文化の分野に関し、委員の補充は行われなかったことになりました。